

眼手術学

監修 大鹿哲郎
筑波大学教授

2

眼瞼

編集 野田実香 北海道大学助教

Textbook for

Ophthalmic Surgeons

文光堂

VI. 脂肪脱

4. 眼瞼脂肪脱 経結膜的脂肪切除

緒方寿夫

[南平台緒方クリニック]

はじめに

眼瞼脂肪脱は、眼窩隔膜および支持組織の脆弱化により眼窩眼瞼部全体の前方膨隆を示す病態である。手術治療は、眼窩脂肪の減量、眼窩隔膜の補強、などが示され、一般に眼窩脂肪の切除が行われる。経皮あるいは経結膜的に眼窩脂肪を切除するが、経結膜的脂肪切除は、皮膚・眼輪筋を損傷せず眼輪筋への神経支配を温存したまま眼窩脂肪を切除できる、皮膚創がないため laser resurfacing やケミカルピーリングなどを同時に行うこともできる、など低侵襲で合併症も少ない患者満足度の高い方法である。

本法は Bourguet(1933)¹⁾ の仏語論文に紹介されているが、本手技が広く知られたのは、Tomlinson(1975)²⁾、Tessier(1977)³⁾ らの後とされる。1990年代には laser resurfacing と同時施行できる術式として広く普及した⁴⁾。昨今ではさまざまな skin tightening 治療が開発され、経結膜的脂肪切除の適応は更に広げられている。

一方、眼瞼脂肪脱による眼瞼膨隆は baggy eyelid deformity と称される。しかし、baggy eyelid deformity は眼瞼脂肪脱のみがその原因ではない。眼窩縁には頬部下垂に伴う陥凹(lid-cheek groove)、眼窩縁鼻側には骨格、眼輪筋・上唇鼻翼挙筋などの形態に基づく陥凹(tear trough deformity)、などがあり、眼瞼の形態は複数の要因によって修飾される。したがって、眼窩脂肪脱の治療は全体の凹凸やその成因を総合的に判断して検討する必要がある。陥凹

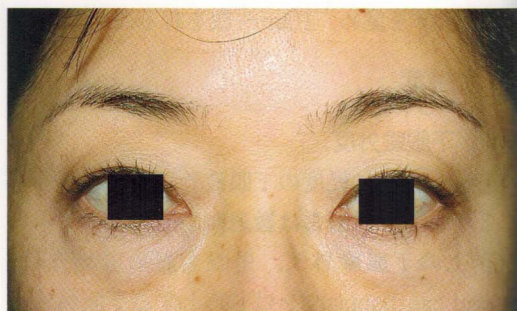


図1 軽度の baggy eyelid deformity 変形の主因は眼瞼脂肪脱にあり、皮膚余剰や弛緩は少ない。眼窩脂肪切除のみで良好な形態が得られる。

部への脂肪移動・脂肪移植、隔膜補強、筋吊り上げ、皮膚切除、などの併用も検討することとなる。

本項では、眼瞼形成術の基本となる経結膜的脂肪切除について、眼窩脂肪へのアプローチ、眼窩脂肪の部位把握と切除法に的を絞って詳述する。

1. 分類と適応

1. 分類

眼窩脂肪脱の病態定義や分類はないが、治療適応を検討するうえで眼瞼形態の把握が肝要である。ここでは baggy eyelid deformity の代表的形態と治療適応を示す。

a. 軽度の baggy eyelid deformity(軽度眼瞼脂肪脱)(図1)

変形の主因が眼瞼脂肪脱にあり、皮膚弛緩や余剰の少ないもの。突出部の眼窩脂肪切除のみ